

令和8年 国語演習 3

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	内容一覧 (三年)
価値を生み出す	いにしえの心を受け継ぐ	いにしえの心を受け継ぐ	自らの考えを	状況の中で	状況の中で	言葉とともに	視野を広げて	深まる学びへ	深まる学びへ	
・それでも、言葉を	・夏草	・君待つと	・複数の意見を読んで、考えよう	・故郷	・挨拶	・俳句の可能性 ・俳句を味わう	・作られた「物語」を超えて	・学びて時に之を習ふ	・握手	
										問題
										解答用紙
										解答



▲こちらから、先生方のお気づきの点やご意見をお寄せください。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

「いっとう悲しいときは……?」

「天使園で育った子が世の中に出て結婚しますね。子供が生まれます。ところがそのうちに、夫婦の間がうまくいなくなる。別居します。離婚します。やがて子供が重荷になる。そこで、天使園で育った子が、自分の子を、またもや天使園へ預けるために長い坂をとぼとぼ上ってやって来る。それを見るときがいっとう悲しいですね。なにも、父子二代で天使園に入ることはないんです。」

ルロイ修道士は壁の時計を見上げて、
「汽車が待っています。」

と言い、^①右の人さし指に中指をからめて掲げた。これは「幸運を祈る」「しっかりおやり」という意味の、ルロイ修道士の指言葉だった。

上野駅の中央改札口の前で、思い切ってきた。

「^②ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか。わたしは怖くしかたがありませんが。」

かつて、わたしたちがいたずらを見つけたときにしたように、^③ルロイ修道士は少し赤くなって頭をかいた。

「天国へ行くのですから、^④そう怖くはありませんよ。」

「天国か。本当に天国がありますか。」

「あると信じるほうが楽しいでしょうが。死ねば、何もなかったおやみに、^⑦サビしいところへ行くと思うよりも、にぎやかな天国へ行くと思うほうがよほど楽しい。そのために、この何十年間、神様を信じてきたのです。」

わかりましたと答える代わりに、わたしは右の親指を立て、それからルロイ修道士の手をとって、^⑤しっかりと握った。それでも足りずに、腕を上下に、^⑥激しく振った。
「痛いですよ。」

ルロイ修道士は顔をしかめてみせた。

上野公園の葉桜が終わる頃、ルロイ修道士は仙台の修道院でなくなった。まもなく、^①一周忌である。^⑥わたしたちに会って回っていた頃のルロイ修道士は、^⑦身体中が悪い^⑧シユヨウの巢になつていたようだ。葬式でそのことを聞いたとき、わたしは知らぬ間に、^⑨両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた。

〈井上ひさし「ナイン」より〉

1 ―― 線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 ―― 線a「そこで」、b「激しく」の品詞名をそれぞれ漢字で書きなさい。

3 ―― 線①「右の人さし指に中指をからめて掲げた」とあるが、このように思いを表す指の動きを何と呼んでいるか。文章から一語で抜き出して書きなさい。

4 ―― 線②「ルロイ先生、死ぬのは怖くありませんか」とあるが、「わたし」が思い切ってきた理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

アルロイ修道士をいたわる気持ちから、死を恐れることはない
と伝えておきたかったから。

イ 前から知リたかった死後の世界のことを教えてもらえる最後のチャンスだと思つたから。

ウ ルロイ修道士なら間違ひなく天国に行けるといふことを、ぜひとも伝えておきたかったから。

エ 別れる前に、死が近いルロイ修道士の本当の気持ちをどうしても知リたかったから。

5 ―― 線③「ルロイ修道士は少し赤くなって頭をかいた」とあるが、その理由をルロイ修道士の気持ちを踏まえて、三十字以上四十字以内で書きなさい。

6 ―― 線④「そう怖くはありませんよ」から読み取れるルロイ修道士の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 死に対して大きな恐怖を抱いている。

イ 天国に行くことを心から楽しみにしている。

ウ 自分の死が近いことを悟り、死を覚悟している。

エ 自分の死から目を背け他人事のように捉えている。

7 ―― 線⑤「しっかりと握った」とあるが、このときの「わたし」の気持ちとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 天国への旅立ちをうらやむ気持ち

イ 嘘をついたことに怒る気持ち

ウ 感謝の思いや別れを惜しむ気持ち

エ 本当は死ぬことを恐れている気持ち

8 ―― 線⑥「わたしたちに会って回っていた」のはなぜか。その理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 天国があることを元園児たちに伝えるため。

イ かつての園児たちと最期の別れをするため。

ウ 自分の死期が近いことを知らせて回るため。

エ 父子で天使園に入らないようにするため。

9 ―― 線⑦「両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつけていた」について、次の問いに答えなさい。

(1) これは「お前は悪い子だ」という意味である。「わたし」はルロイ修道士のどのようなことを「悪い」と感じているか。二十字以上三十字以内で書きなさい。

(2) ここから読み取れる「わたし」の気持ちとして適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 先生に恩を返しきれなかった自分へのやるせなさ

イ 自分の言葉を聞き入れなかつた先生への失望

ウ 先生の病気に気づけなかつた自分への憤り

エ 先生を死に追いやつた、病気に対する怒り

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

① 子曰はく、「学びて時に之を習ふ、亦説はしからずや。」
(④)、亦樂しからずや。
③ 人知らずして慍みず、亦君子ならずや。」と。

子曰、「学而時習之、不亦説乎。」
④ 有朋自遠方、不亦楽乎。
⑤ 人不知而不慍、不亦君子乎。」

② 子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、以て師たるべし。」と。

子曰、「温故而知新、可_ニ以_テ為_ル師_ニ矣。」

③ 子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。」
思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

子曰、「学而不思則罔、思而不学則殆。」

④ 子曰はく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。」
之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

子曰、「知之者、不如好之者、好之者、不如楽之者。」

〈「論語」より〉

1 〰〰線 a 「思はざれば」、b 「殆し」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

2 線①「子曰はく」とあるが、「子」とは誰のことか、人名を漢字で書きなさい。

3 線②「亦説はしからずや」とあるが、その意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア なんとうれしいことではないか。
イ もう一度うれしさを感じられるのだ。
ウ 本当にうれしいものだろうか。
エ まったくうれしくないことである。

4 線③「人知らずして慍みず」とあるが、どのようなことか。「世の中」「認める」「不満」の三語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。ただし、「認める」については、活用させてもよいこととする。

5 線④「有_下朋自_ニ遠方_一来_上」を書き下し文に直し、すべてひらがなで書きなさい。

6 線⑤「人不知而不慍、不亦君子乎」の「而」のように、白文にあっても訓読するときには読まない文字を何というか。三字で書きなさい。

7 ②の漢文が基になってできた故事成語を漢字で書きなさい。

8 線⑥「罔し」とあるが、その意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 独断に陥ってしまい危険である。
イ 学んだことを明確に理解できない。
ウ 自分の考えしかもつことができない。
エ 明るい未来が訪れることはない。

9 ③から、「子」の学問に対するどのような考え方がわかるか。「先人」「研究」の二語を使って、「学問には、〰〰が必要だ。」という形で、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

10 線⑦「如かず」とあるが、その意味として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 比べられない
イ 決してしない
ウ 及ばない
エ 限らない

11 線⑧「不如楽之者」とあるが、書き下し文に合うように返り点をつけなさい。

12 ④の漢文に出てくる「知る者」「好む者」「楽しむ者」を「子」がよいと考える順に並べて書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

こうした誤解に基づく「物語」は、人間の社会にも^①悲劇をもたらす。何気ない行為が誤解され、それがうわさ話として人から人へ伝わるうちに^⑦コチヨウされて、周りに嫌われてしまうことがある。まだ、同じ言葉で話し合い、誤解を解くことができる間柄なら、^②大きな悲劇に発展することを抑えることができる。^③A、言葉や文化の違う民族の間では、誤解が修復され、^④いまま「物語」が独り歩きをして敵対意識を増幅しかねない。私がゴリラの調査で訪れていた当時のルワンダやコンゴなどでも、^⑤紛争が絶えず、肌で戦いを感じる機会が何度もあった。今でも世界各地で争いや^⑥シヨウトツが絶えないのは、互いに^⑧相手を悪として自分たちに都合のよい「物語」を作りあげ、それを世代間で継承し、果てしない戦いの心を抱き続けるからだ。どちらの側にいる人間も、その「物語」を真に受け、反対側に立って自分たちを眺めてみることをし^⑨ない。アフリカの森で暮らすゴリラの調査を通じて、私は人間の、自然や動物、^⑩B人間自身を見る目がいかに^⑪誤解に満ちているかを知ることができた。その誤解を解くためには、相手の立場に立って、一つ一つの行動にどんな意味があるかを考えることが必要である。人から伝え聞いた「物語」と実際に自分が向かい合っている現象とを照らし合わせ、これまでの常識を疑ってみる態度も必要となる。「物語」によって作られた常識の陰に、^⑫しいたげられている生き物や人間がないか、意味を取り違えて^⑬排除していることが^⑭ないか、思いを巡らすことが大切だと思う。

ドラミングが戦いの宣言だという「物語」の誤解を超えた先には、「ゴリラが^⑮人間とは別の表現を用いて平和を保っている」という私にとって新しい価値をもつ豊かな世界が広がっていた。体の仕組みや能力の違う動物の視点に立つためには、その動物が暮らしている自然をよく知ることが必要になる。同じように、この地球に生きるさまざまな人々に起きている「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている文化や社会をよく理解することが必要であろう。

話を作り、伝える能力は、言葉をもった人間に多くの仲間と交流できる世界をもたらした。そのおかげで、人間は見知らぬ人々と出会ってもすぐに受け入れることができるし、遠く離れた場所で起こった出来事をいっしょに喜び、悲しむこともできる。現代はさまざまな文化や社会で暮らす人々が国境を越えて行き交う時代である。だからこそ、自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑うこと、何より自分を相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である。作られた「物語」を超えて、その向こうにある真実を知ろうとすることが、^⑯新しい世界と出会うための鍵なのだ。

〈山極寿一「作られた『物語』を超えて」より〉

1 線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a、dの「ない」のうち、一つだけ品詞の違うものがある。その記号を選び、品詞名を漢字で書きなさい。

3 A、B にあてはまる言葉として適当なものの組み合わせを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- A だが | B つまり
イ A あるいは | B そして
ウ A だが | B そして
エ A あるいは | B つまり

4 線①「悲劇をもたらす」のは、なぜだと筆者は考えているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 誤解が解かれずにコチヨウされ、自分たちの都合に合わせて相手を悪とした「物語」となるから。
イ 誤解を解ける関係なら、話し合うことで悲劇に発展することを抑えることができるから。
ウ 悪である相手に対する自分たちの真の「物語」を作りあげ、世代間で伝えることができるから。

エ 新しい技術や工夫がもたらされたことで、よりコチヨウされた戦いの心を抱き続けるから。

5 線②「大きな悲劇に発展する」とあるが、それはどういう場合か。「場合。」につながるように、十五字以上二十五字以内で書きなさい。

6 線③「誤解に満ちている」とあるが、その誤解を解くために、どのようなことが必要か。「こと。」につながるように、十字以上二十字以内で二つ書きなさい。

7 線④「人間とは別の表現」をもって動物を理解するために必要なことは何か。文章中から二十字で抜き出して書きなさい。

8 筆者はゴリラを例に挙げて、人間社会で起きている「物語」の誤解を超えるために必要なことはどのようなことであると述べているか。「疑う」「理解」の二語を使って、三十五字以上四十五字以内で書きなさい。ただし、「疑う」については、活用させてもよいこととする。

9 線⑤「新しい世界」が表している世界として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A これまでの常識を大切にしつつ、新たな考え方に沿った世界
イ 誤解によって見えていなかった、新たな価値をもつ豊かな世界
ウ これまで不可能だった、人間と動物が共存していく世界
エ これまで曖昧だった平和の定義がはっきりとした世界

10 「物語」という言葉は、この文章ではどのような意味で使われているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- A 体験した事実の話
イ 創作した話
ウ 参考になる話
エ 都合よく解釈した話

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

【A】 どの子にも涼しく風の吹く日かな

飯田 龍太

この句には、「どの子」とは誰なのか、風の吹いている場所はどこなのか、現在のことなのか、過去のことなのか、時間は午前なのか午後なのか、そのような説明が何も書かれていないわかつているのは、季節が夏であること、子供が複数いること、その子たちに涼しい風が分け^⑦ヘタでなく吹いているということだけである。

① 俳句が散文や報道記事などと違うのは、省略されている部分を、読む人の自由な解釈で補って鑑賞できるところである。この句を読んで、「どの子にも」とは自分のことだ、と思う人もあるだろうし、校庭の^⑧木陰でクラスメイトとくつろいでいるときのことだと思う人もあるだろう。幼児の頃、海辺で遊んだ体験を思い出す人もあるだろう。

そんな想像をかきたてる個々別々の言葉を一つに^⑨つないでいるのが、五・七・五という「定型」と、「涼し」という夏を表す言葉、すなわち「季語」である。詳しい説明を省略する俳句には、一句の柱となる言葉に「季語」を用い、それを五・七・五という「定型」で表現するという基本的な約束がある。この約束を「^⑩あ」といい、俳句という韻文を支える大きな力となっている。「涼し」が夏の季語であることを知るには「^⑪い」を繰ればよい。

(中略)

【B】 跳箱の突き手一瞬冬が来る

友岡 子郷

初冬の体育館で体育の跳び箱練習をしている瞬間を、カメラに捉えたと思えばいい。跳び箱に手を突いて空中に飛び上がった。その一瞬、宙で触れた澄んだ大気に、「冬だ。」と感じたのだ。「跳箱の突き手一瞬」と「冬が来る」ことは無関係だが、作者の感性は、この二つを一つにすることで、初冬のきりつとした季節感を出すことに成功している。

「一瞬」を「冬」という長い時間につなぐことができるように、短い字数で^⑫いろいろなことが表現できるところに、俳句の可能性が秘められている。

(中略)

【C】 ^⑬分け入つても分け入つても青い山

種田 山頭火

放浪の俳人と呼ばれた山頭火は、一人で全国を行脚する旅に出た。繰り返し返した言葉のリズムが、山道をひたすら進む歩調に重なり、読者を共に歩いているかのような調子に誘い込む。

この句は五・七・五の定型をはみ出しており、季語もない。このような自由な音律の俳句を「自由律俳句」とよび、季語のない俳句を「無季俳句」とよんでいる。

約束が多くて、俳句は難しいと思われるかもしれないが、ここに取り上げた^⑭俳句には特別なものは一つも出てこない。涼しい風、雪、跳び箱、たんぽぽ、歩くことなど、私たちの身近なものばかりだ。関心をもてば、教室の窓から見える雲も、風に揺れる草木も、道端の小石も虫も、友達や家族も、みな俳句の主役になってくれる。

へ宇多喜代子「俳句の可能性」より

1 線⑦、⑧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a「つない」b「いろいろな」の品詞名と活用形をそれぞれ漢字で書きなさい。

3 線①「俳句が散文や報道記事などと違う」について、次の問いに答えなさい。

(1) 違いはどのようなところにあるか。文章から三十五字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

(2) (1)のことを、Aの句を例にして説明しなさい。

4 ^⑩あ、^⑪い にあてはまる言葉を、それぞれ漢字四字以内で書きなさい。

5 Bの句について、次の問いに答えなさい。

(1) この句と同じ季節を詠ったものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A ちるさくら海あをければ海へちる
イ 星空は無音の瀑布鯨飛ぶ
ウ 金剛の露ひとつぶや石の上
エ いなびかり北よりすれば北を見る

(2) この句から感じられる印象として、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 冬の冷え切った空気と、跳び箱のずしりとした存在感
イ 冬の澄み切った空気と、早く跳ばなくてはという焦燥感
ウ 冬の張りつめた空気と、跳び箱を跳ぶ瞬間の緊張感
エ 冬の湿った空気と、跳び終えてほっとした安心感

(3) この句ではどのように季節感を出しているのか。「一瞬」「冬」の二語を使って、三十字以上四十字以内で書きなさい。

6 線②「分け入つても分け入つても」という反復表現には、どのような効果があると筆者は述べているか。「効果。」につながるように、文章中から二十二字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

7 線③「俳句には特別なものは一つも出てこない」を別の言葉で言い換えた次の文の^⑮⑮、^⑯⑯に入る言葉を、文章中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

* ^⑮⑮(二字)さえもてば、どんな^⑯⑯(二字)なものでも俳句の対象になる。

次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

挨拶——原爆の写真によせて

石垣
りん

あ、

この焼けただれた顔は

一九四五年八月六日

その時広島にいた人

二五万の焼けただれのひとつ

① すでに此の世にないもの

とはいえ

友よ

向き合った互の顔を

も一度見直そう

戦火の跡もとどめぬ

② すこやかな今日の顔を

すがすがしい朝の顔を

③ その顔の中に明日の表情をさがすとき
私は りつぜんとするのだ

④ 地球が原爆を数百個所持して

生と死のきわどい淵を歩くとき

なぜそんなにも安らかに

⑤ あなたは美しいのか

しずかに耳を澄ませ

何かが近づいてきはしないか

見きわめなければならないものは目の前に

えり分けなければならないものは

手の中にある

⑥ 午前八時一五分は

毎朝やってくる

一九四五年八月六日の朝

⑦ 一瞬にして死んだ二五万人の人すべて
いま在る

あなたの如く 私の如く

やすらかに 美しく 油断していた。

〈石垣りん「石垣りん詩集」より〉

1 この詩の種類(文体と形式)を漢字五字で書きなさい。

2 「倒置法」が使われている連はどこか。解答欄に当てはまるように漢数字で書きなさい。

3 線①「すでに此の世にないもの」とは、何を指すか。次のA、Bにあてはまる言葉を、詩の中からそれぞれ二字で抜き出して書きなさい。

* A(二字)に落とされた B(二字)の犠牲になった人。

4 線②「すこやかな今日の顔／すがすがしい朝の顔」とあるが、これらの顔と対比されている顔を、詩の中から七字で抜き出して書きなさい。

5 線③「りつぜんとする」とあるが、作者がそう感じたのはなぜか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 戦争の傷跡が癒え、毎日幸せそうだから。

I 友人を戦争で失った悲しみがよみがえるから。

U 日常が続くと信じて疑っていないから。

E 明日を待ち遠しそうにしているから。

6 線④「地球が原爆を数百個所持して」に使われている表現技法を漢字で書きなさい。

7 線⑤「あなた」と同じ意味で使われている言葉を、詩の中から一字で抜き出して書きなさい。

8 線⑥「午前八時一五分は／毎朝やってくる」とはどのようなことか。「原爆」「続く」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。ただし、「続く」については、活用させてもよいこととする。

9 線⑦「一瞬にして死んだ二五万人の人」とあるが、同じ意味になっている言葉を第一連から一行で抜き出して書きなさい。

10 この詩にこめた作者の思いとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 原爆による危険が近づいている中で、何もできない自分の無力さへの嘆き

I 平和な世の中が当たり前だと思っている人々の姿を見て、こみあげる怒り

U 戦争が終わり、原爆による危険が存在しない現代に生きることへの感謝

E 日常を一瞬で壊す戦争の恐ろしさを忘れないように訴える警告

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

ある寒い日の午後、私は食後の茶でくつろいでいた。表に人の^⑦気配がしたので、振り向いてみた。思わずあっと声が出かった。急いで立ち上がって迎えた。

来た客はルントウである。ひと目でルントウとわかったものの、そのルントウは、^①私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった。背丈は倍ほどになり、昔の艶のいい丸顔は、今では黄ばんだ色に変わり、しかも深いしわが畳まれていた。目も、彼の父親がそうであったように、周りが赤く腫れている。私は知っている。海辺で耕作する者は、一日中潮風に吹かれるせいで、よくこうなる。頭には古ぼけた毛織りの帽子、身には薄手の綿入れ一枚、全身ぶるぶる震えている。紙包みと長いきせるを手に、^①サ^①げている。その手も、私の記憶にある血色のいい、丸々した手ではなく、太い、節くれだった、しかもひび割れた、松の幹のような手である。

私は、感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやら思案がつかぬままに、ひと言、
「ああルンちゃん——よく来たね……。」

^②続いて言いたいが、後から後から、数珠つなぎになって出かかった。チアオチー、跳ね魚、貝殻、チャー……。だが、それらは、何かでせき止められたように、頭の中を駆け巡るだけで、口からは出なかった。

彼は突っ立ったままだった。^③喜びと寂しさの色が顔に現れた。唇が動いたが、声にはならなかった。最後に、うやうやしい態度に変わって、はっきりこう言った。

「^④旦那様！……。」

^⑤私は身震いしたらしかった。悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。私は口がきけなかった。

彼は後ろを向いて、「シュイション（水生）、旦那様にお辞儀しな。」と言って、彼の背にかくれていた子供を前へ出した。

これぞまさしく三十年前のルントウであった。いくらか痩せて、顔色が悪く、銀の首輪もしていない違いはあるけれども、「これが五番目の子でございます。^⑥世間へ出さぬものですから、おどおどしておりまして……。」

母とホルルが二階から下りてきた。話し声を聞きつけたのだろう。

「御^⑦インキョ様、お手紙は早くにいただきました。全く、うれしくてたまりませんでした、旦那様がお帰りになると聞きまして……。」と、ルントウは言った。

「まあ、なんだってそんな他人行儀にするんだね。おまえたち昔は兄弟の仲じゃないか。昔のように、シュンちゃん、でいいんだよ。」と、母はうれしそうに言った。

「めっそうな、御インキョ様、なんとも……とんでもないことでございます。あの頃は子供で、^⑧何のわきまえもなく……。」そして、またもシュイションを前に出してお辞儀させようとしたが、子供ははにかんで、父親の背にしがみついたままだった。

〈魯迅作 竹内好訳「故郷」より〉

1——線⑦「^①の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2——線「松の幹のような手」に使われている表現技法を漢字で書きなさい。

3——線①「私の記憶にあるルントウ」の様子が分かる表現を、文章中から六字と十一字で二つ抜き出して書きなさい。

4——線②「続いて言いたいが、く出かかった」とあるが、「私」がルントウとの再会で期待していたこととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 少年時代には不十分だった二人の冒険の続き
イ 少年時代のような家族ぐるみの付き合いの継続
ウ 少年時代を懐かしお楽しい思い出の交流
エ 少年時代以降、交際が途絶えていたことへの謝罪

5——線③「喜びと寂しさの色」とあるが、どのようなことへの「喜び」と「寂しさ」なのか。「くこと。」につながるように、それぞれ十五字以上二十五字以内で書きなさい。

6——線④「旦那様！……。」というルントウの言葉は、「私」へのどのような気持ちから出た言葉だと考えられるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 心の底から尊敬する気持ち
イ 皮肉を言って、からかう気持ち
ウ 身分差から、立場をわかまえる気持ち
エ 冗談を言って、驚かそうとする気持ち

7——線⑤「私は身震いしたらしかった」とあるが、自分の行動にもかかわらず、「らしかった」と表現していることから、「私」のどのような様子を読み取ることができるか。「理解」の一語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

8——線⑥「何のわきまえもなく」とあるが、ルントウは、どのようなことに対して「わきまえもない」と考えているのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 他人行儀な言葉遣いをやめないこと
イ 「私」と兄弟のように親しくしていたこと
ウ ルントウの子どもが背にかくれていたこと
エ 自分に対してわざわざ手紙を出してもらったこと

9「私」とルントウの身分や境遇の違いをたとえた表現を、文章中から八字で抜き出して書きなさい。

・複数の意見を読んで、考えよう

次の二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。（字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。）

① 私は研究者として環境問題に携わっている。しかし、仕事帰りに立ち寄るスーパーで豆腐が十円引きだとちよつとうれしくなるような、ごく普通の市民でもある。そんな私たちが、無理なく納得して環境問題に取り組むために、今、^①何が必要だろうか。

環境保全というと、ごみ拾いのボランティアやこまめな節電、募金などを思い浮かべる人もいるだろう。これらの取り組みは、確かにすばらしい。しかし、このように個人の良心や自己犠牲に依存する社会では、地球環境は守れないと私は考えている。

では、どうすればよいか。個人に負担を^②強いるのではなく、社会全体で解決する工夫が必要だ。例えばスーパーで食材を選ぶ際、私たちはなるべく安くて、^③おいしいものを選ぶ。あたりまえだ。このような人間の「あたりまえ」を利用して、環境を守る仕組みを作るのだ。^④A、安くておいしいものを選んだら、最も環境によい商品だった、という状況を作り出せばよい。こんな都合のよい状況の実現のために「インセンティブ」という考え方が使える。これは経済学の用語であり、人々の意思決定や行動を変化させる要因のことだ。例えば、政府が環境に^⑤よい製品に補助金を出すことで、その製品の価格は安くなり、消費者に人気が出る。逆に、環境に悪い製品には補助金が出ないので、価格が高くなり、あまり売れなくなる。このように、政策決定者がしっかりとインセンティブを実施すれば、「お買い得」みたいな言葉に弱い我々でも環境保全に^⑥コウケンできる。

とはいえ、「環境に配慮されていなくても、私はこの製品を選びたい。」という人もいるだろう。インセンティブは、そういった意見や行動も否定しない。選択の自由と多様性を維持したうえで、社会全体をエコな方向にもっていくという考え方ののだ。^⑦環境保全のことを考えるときには、熱意をもって活動に取り組む人々に注目が集まることが多い。だが、世の中にはさまざまな考えをもった人たちがいる。そのような人にも通用するような現実的な仕組みが、環境問題の解決には求められるのではないだろうか。

〈伊勢武史「社会全体で解決できる仕組みを作る」より〉

② 私は長年、テレビ局のプロデューサーとして環境問題をテーマにした番組を制作し、専門家や企業の担当者に取材を重ねてきた。今、私たちは地球温暖化をはじめとする^③深刻な気候危機のただ中にいる。科学者たちは、目前に迫る二〇三〇年までに二酸化炭素の量を半減させなければ、温暖化の進行はより早まり、被害が深刻化すると^④ケイショウを鳴らしている。

では、温暖化を止め、地球環境を守るために、私たちに何ができるのだろうか。世界各地で取材を続ける中で、私がたどり着いた答えは、「市民一人一人が行動を起こすこと」だ。^⑤気温の上昇を止めるために、すぐにでも取り組めることは、たくさんある。電気をこまめに消すこと。自転車や公共交通機関を使うこと。木を植えること。マイバッグを持ち歩き、プラスチックなど石油製品の使用を控えること。

^⑥B、そんな小さなことの積み重ねで、^⑦本当にこの状況が変わるのかと感じる人もいるだろう。

確かに、個人がこうしたことに取り組むだけでは、温暖化は止まらない。一人一人の直接的な力は、とても小さい。しかし、もし膨大な数の個人が一度に行動を起こせば、どうだろうか。国や企業も活動の方針を変えざるをえなくなる。多くの人が行動を起こせば、間接的に世の中を動かす効果があるのだ。^⑧

身の回りでも、^⑨既に変化は現れ始めている。例えば、店舗の電力

を一部、再生可能エネルギーに切り替えたり、商品の包装を削減したりする企業が増えている。私たち消費者が、持続可能性に配慮した商品を選ぶようになれば、企業の態度は変化する。一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩なのだ。

どんなに難しい問題の解決も、最初はたった一人が動きだすことから始まる。何より大事なものは、そのとき、「声を上げること」だ。気候危機を食い止めたいという熱意を「声」にして働きかければ、周囲の人々の行動が変わる。それはいつしか大きな流れとなり、企業を変え、社会を変える。一人でも多くの人が、環境問題を自分のこととして捉え、今すぐ行動を起こすことを期待している。

〈堅達京子「一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩」より〉

1 線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a「おいしい」b「とても」の品詞名をそれぞれ漢字で書きなさい。

3 A、Bにあてはまる言葉として適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A また イ だが ウ つまり

エ だから オ ところで

4 線①「何が必要だろうか」とあるが、筆者は何が必要だと述べているか。文章中から十一字で抜き出して書きなさい。

5 線②「インセンティブ」について次の問いに答えなさい。

(1) 「インセンティブ」とは、この文章ではどのような意味で使われているか。文章中から十八字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

(2) この文章での「インセンティブ」の考え方として、適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 環境に配慮されていない製品を選ぶ人を批判し、社会全体で環境保全を急速に進める考え

I 環境に悪い製品を製造する業者を厳しく弾圧し、環境に配慮された製品だけを流通させる考え

ウ 補助金をコントロールすることで物価の上昇を抑え、社会全体を自由で豊かなものにする考え

エ 個人の意思を尊重しつつ、社会全体が環境に配慮できるような仕組みを構築していく考え

6 線③「深刻な気候危機」の中で、筆者は私たちにできることは何だと考えているか。文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

7 線④「本当にこの状況が変わるのか」と感じる人に対し、筆者はどのように述べているか。「直接的」「間接的」「行動」の三語を使って、四十字以上五十字以内で書きなさい。

8 ①、②の文章の内容として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A ①では、個人の行動が社会に与える影響に注目し、一人一人が積極的に行動するべきだと述べている。

I ②では、個人に注目するのではなく、仕組みを整えることで環境問題を解決するべきだと述べている。

ウ ①も②も、社会全体を変える必要性を述べているが、②は個人の行動に注目して意見を述べている。

エ ①も②も、科学的な根拠に基づいて現状を理解し、問題を解決する方法を考えるべきだと述べている。

9 ①、②の内容を踏まえ、あなたは環境問題の解決に必要なことは何だと考えるか。六十字以上七十字以内で書きなさい。

次の和歌を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

⑦ 万葉集

A 春過ぎて夏来るらし白たへの
衣千したり天の香具山

持統天皇

B 君待つと我が恋ひ居れば我が
すだれ動かし秋の風吹く

額田王

C 憶良らは今は罷らむ子泣くらむ
それその母も我を待つらむそ

山上憶良

D 新しき年の初めの初春の
今日降る雪のいやしけ吉事

新古今和歌集

E 人はいさ心も知らずふるさとは
花ぞ昔の香ににほひける

在原業平

F ちはやぶる神世もきかず龍田河
韓紅に水くくるとは

小野小町

G 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ
夢と知りせば覚めざらましを

新古今和歌集

H 道の辺に清水流るる柳かけ
しばしとてこそ立ちどまりつれ

藤原定家

I 見わたせば花も紅葉もなかりけり
浦の苫屋の秋の夕暮

式子内親王

J 玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば
忍ぶることの弱りもぞする

新古今和歌集

1 線⑦「万葉集」を編纂したとされるDの和歌の作者の名前を漢字で書きなさい。

2 線①「古今和歌集」は醍醐天皇の勅命によって作られた最初の和歌集である。このような天皇の命で作られた和歌集のことを何というか。□にあてはまる言葉を書きなさい。

3 線a「恋ひ居れば」b「にほひける」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

4 Fの和歌の「ちはやぶる」について次の問いに答えなさい。

(1) このような、多くは五音からなる特定の語を導き出す語を何というか。二字で書きなさい。

(2) 「ちはやぶる」が導いている語を和歌中から抜き出して書きなさい。

5 Aの和歌について、「夏来るらし」と推定したのはなぜか。次の文の空欄に入る言葉を十五字以内で書きなさい。

*天の香具山に□。

6 Bの和歌について述べられたものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 自分の恋心が変わるさまを、聴覚で捉えて歌っている。

イ 「君」を待つ恋心を、季節の情景に重ねて歌っている。

ウ 「君」への恋心を隠し、秋の季節の変化を歌っている。

エ 技巧を多用し、自分の恋心を秋風にたとえて歌っている。

7 Cの和歌について、憶良はなぜ「今は罷らむ(もう退出いたしましう)」と言ったのか。理由を二つに分けて、それぞれ十五字程度で書きなさい。

8 Dの和歌について、作者はどのようなことがたくさん起きてほしいと願っているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 喜ばしいこと

イ 興味深いこと

ウ 不思議なこと

エ 寂しいこと

9 Eの和歌で対比されているものを探し、解答欄に合う形でそれぞれ書きなさい。

10 Gの和歌について、「夢と知りせば覚めざらましを」と作者が思うのはなぜか。一文で書きなさい。

11 Hの和歌について、「しばしとてこそ立ちどまりつれ」から、作者はどうしたことが分かるか。「涼しい」の一語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。ただし、「涼しい」については、活用させてもよいこととする。

12 Iの和歌について述べられたものとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

A 海辺の何気ない光景に風流の美を見出している。

イ 家族や故郷から引き離された悲しみを歌っている。

ウ 旅路のすがすがしい一時を実感的に歌っている。

エ 一つの間にか訪れた季節の移り変わりを感じている。

13 Jの和歌について、作者はなぜ「玉の緒」を「絶えなば絶えね」と思っているのか。解答欄の書き出しに続くように「恋心」の一語を使って、二十字以上三十字以内で書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

一

月日は百代の過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老いを迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとする。古人も多く旅に死せるあり。予もいつれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、去年の秋、江上の破屋に蜘蛛の古巣をばらひて、やや年も暮れ、春立てる霞の空に、白河の関越えおと、そぞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神の招きにあひて、取るものにつかず、股引の破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に灸すゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、杉風が別荘に移るに、

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
面八句を庵の柱に懸け置く。

二

三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。まづ、高館に登れば、北上川、南部より流るる大河なり。衣川は、和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり。さても義臣すぐつて、この城に籠もり、功名一時の草むらとなる。

「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて、時のうつるまで涙を落としはべりぬ。

⑧ 夏草や兵どもが夢の跡

⑨ 卯の花に兼房見ゆる白毛かな

曾良

〈「おくのほそ道」より〉

1 「おくのほそ道」の作者と、作品が成立した時代を、それぞれ漢字で書きなさい。

2 〰〰〰線 a 「江上」、b 「はらひて」を現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。

3 線①「旅人」と同じ意味の語句を二の文章中から抜き出して書きなさい。

4 線②「古人も多く旅に死せるあり」とあるが、ここから読み取れる作者の思いとして適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 行くあてのない不安
イ 自らも旅に出たい願望
ウ 世間で評価されたい欲望
エ 詩歌の先達への憧れ

5 線③「そぞろ神の物につきてゝ取るものにつかず」で使われている表現技法を書きなさい。

6 線④「住めるかたは人に譲りて」とあるが、作者のどのような気持ちが表れているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 他人への親切心
イ 旅にかける決意
ウ 待つ人がいない孤独感
エ 貧しさゆえの苦悩

7 線⑤「草の戸も住み替はる代ぞ雛の家」の句の大意を「草庵」「新しい住人」「雛人形」の三語を使って、三十字以上四十文字以内で書きなさい。

8 線⑥「この城」とあるが、それはどこか。二の文章中から一語で抜き出して書きなさい。

9 線⑦「時のうつるまで涙を落としはべりぬ」とあるが、作者はなぜ涙を落としたのか。「自然」「人間」の二語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

10 線⑧「夏草や兵どもが夢の跡」の句と同じような内容を表す部分を、二の文章中から十一文字で抜き出して書きなさい。

11 線⑨「卯の花に兼房見ゆる白毛かな」の句について、次の問いに答えなさい。

(1) 曾良は何を見て、何を連想したか。「ゝ」を連想した。」につながるように、十五字以内で書きなさい。

(2) 季語、季節、切れ字を書きなさい。

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

言葉の二極化は、価値の二極化とも連動している。わかりやすさが善くて、わかりにくさは悪いといった単純な二項対立。現実の社会では、正解がない問いにどう対処していくかを考えることが常に求められるのに、わからないものに、わからないまま向き合い続ける知的耐性がない。^①思考停止に陥り、わかりやすい言葉、わかりやすい説明にすぐに飛びついてしまう。

私自身、このような状況を前にして、言葉の無力さに打ちひしがれることがある。確信をもって言葉を発せないこともある。

A、戦争の足音が遠くから響いてくる今、言葉の無力を前に、ただうなだれてばかりでおれない。歴史をひもとけばすぐにわかることだが、人々をおおることで^②言葉が戦争を構成してゆくこともあれば、口をつぐむことで人々を戦争へと押しやることもある。だが、口を塞がれても言葉を失っても、それは表現が追い詰められているだけで、言葉の可能性が根こぎにされたわけではない。言葉を失いかけていることを初めて、そしてもっとも痛切に知らせるのも言葉だったし、言葉の無力にうなだれる声をもっとも繊細に伝えてきたのも言葉だった。言葉の制圧^③に対して、高度な当てこすりやアクロバティックな手法で抵抗してきたのも言葉だった。Bその最終的な挫折をすら、人は言葉に残し、そのあと何度も反芻^{はんそう}した。そういう言葉の力に、一人一人がそれぞれに、^⑦マギれもなく支えられてきた。

言葉と思考が二極化したこの時代だからこそ、私は両端の「間」に息づく言葉、^③多様なグラデーションを許容する言葉のありように注目したい。言葉には独特の厚みがある。含みや曲折、肌理^{きめ}や奥行き、曖昧さや多義性があって、だからこそ心のひだや物事の差異を^①ピサイに表現できる。ちやかしたり皮肉ったり、あるいはかわしたり裏返したりもできる。そういうアイロニーやユーモアに見られる間合いの幅。ためらいや迷い、もたつきをも受け入れる^⑤カンヨウさ。そうした、いきなりぶつかるともなく、かといって接触を避けるのもなく、互いに適切な距離を測りつつ、触れるか触れないかのあわいで探り合う言葉が、今ほど求められているときはないのではないか。

私の担当するコラムは、小さな枠の中で、水をまくように言葉のかけらをまく。文脈を丁寧につける紙幅がないため、人によって相反する受け止め方もされよう。ただ、「あれっ？」と引っ掛かるところを大事にしている。一瞬意味のつかめないような表現や逆説、言外に含みや時に毒のあるもの。それらがフックとなって次の思考が始まればいい。

言葉の^④惨状にめげそうになりながら、私は今日も言葉の森をうろついている。私の見つけた言葉が、まだ見ぬ誰かへの贈り物になり、その人の中で育った言葉が、また他の誰かを支えられたらいいなと思っている。

〈鷲田清一「それでも、言葉を」より〉

1 ――線⑦の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 〳〵線「制圧」と同じ構成の熟語として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 功罪 イ 歓声 ウ 拡大 エ 洗顔 オ 地震

3 A、Bにあてはまる言葉として適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 例えば イ だが ウ つまり
エ なぜなら オ そして

4 ――線①「思考停止に陥り、わかりやすい言葉、わかりやすい説明にすぐに飛びついてしまう」とはどのような状況を指すか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 考えを整理して、明確な結論を導くことができる状況
イ 複雑な問題を簡単に解決する方法を発見できる状況
ウ わかりやすい言葉を使うことで、他人に伝わりやすくなる状況
エ 難しいことを考えず、単純な解決策を求めてしまう状況

5 ――線②「言葉が戦争を構成してゆく」とはどういうことか。適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 言葉が戦争の悲惨さを記録する役割を果たすこと
イ 言葉を使って戦争を支持したり、助長したりすること
ウ 言葉が戦争を止めるために使われること
エ 言葉によって戦争の結果が変わること

6 ――線③「多様なグラデーションを注目したい」とあるが、それはなぜか。「曖昧さ」「適切な距離」の二語を使って、四十五字以上五十五字以内で書きなさい。

7 ――線④「私は今日も言葉の森をうろついている」とはどういう意味か。「支え」の一語を使って、「様子」につながるように、十五字以上二十五字以内で書きなさい。

8 この文章における「言葉の力」についての筆者の考えとして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 言葉は無力であり、結局人を支えることはできない。
イ 言葉は戦争を止めることはできないが、人をあおる力はある。
ウ 言葉には無力さもあるが、多様な表現で人を支え、生かす可能性もある。
エ 言葉はどんな状況でも正しい答えを与える力をもっている。

9 この文章の書かれ方の特徴について適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 論理的に整理され、読者に明確な結論を示す書き方
イ 比喩や抽象的な表現を使い、読者に深く考えさせる書き方
ウ 感情的な表現を使い、読者に強い共感を呼び起こす書き方
エ 具体例を用いて簡潔に事実を伝える説明的な書き方

令 8

握

手

3 年

組

番

氏 名

※無断で複写・複製を禁じます。

得点

観点別

知·技

10

思·判·表

40

[illegible]

⑥ × 1	③ × 2	⑦ × 1	③ × 4	⑦ × 1	③ × 4															
12 思	11 知	10 知	9 思	8 知	7 知	6 知	5 知	4 思	3 知	2 知	1 知									
			25																	
↓ 不 _ト 如 _カ 樂 _{シム} 之 _ヲ 者 _ニ ↓																				
			35																	
			30 20																	

令 8

 学_レびて時に之_{これ}を習ふ

3 年

組

番

氏 名

 観
点
別

知・技

/30

思・判・表

/20

得 点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

作られた「物語」を超えて

3 年

組

番

氏 名

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

觀點別

知·技

14

思·判·表

36

得点

[illegible]

③ × 3		④ × 1			③ × 2	③ × 2	④ × 1		③ × 1	③ × 6		
7 ⑦	6 ⑥	5			4 ④	3		2 ②		1 ①		
⑦	始め	(3) ③			(1) ①	④	(2) ②	(1) ①	b	a	ア	
								始め	品詞	品詞		
⑧												
	ゝ										て	
	終わり				(2) ②	⑤		ゝ	活用形	活用形	①	
								終わり				
	効果。											
		40	30									

観点別
知・技
24
思・判・表
26

令 8

故

鄉

3 年

組

番

氏 名

	得点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

観点別

知·技

10

思·判·表

40

得点

げて

[illegible]

令8
握
手
3 年 組 番 氏 名
得 点

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

5 ルロイ修道士の気持ちを踏まえていなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
9 (1) 文末が「〜こと。」でなければ二点減点。

観点別
知・技
10
思・判・表
40

				⑤ × 8				② × 5			
9				8 ⑤	7 ⑤	6 ⑤	5 ⑤	4 ⑤	3 ⑤	2 ⑤	1 ⑤
(2)	(1)									a	ア
ア	回	、	(例)重				っ	気	当	(例)わ	
	っ	わ	い				た	づ	の	た	接
エ	て	た	病	イ	ウ	ウ	か	か	理	し	指
	い	し	気				ら	れ	由	に	言
	た	た	で				。°	て	を	会	葉
	こ	ち	あ					照	、	い	(漢字指定)
(順不同)(完答)	と	に	り					れ	わ	に	形容詞
	。°	会	な					く	た	来	(漢字指定)
		っ	が					さ	し	た	腫
	て	ら	ら					か	に	本	瘍
30	20						40	30			

令8
作られた「物語」を超えて
3 年 組 番
氏 名
得 点

(採点基準)

8 6 5
文末が「場合。」につながる形でなければ不可。
文末が「こと。」につながる形でなければ不可。
文末が「(活用可)」「理解」の二語がなければ不可。
でなければ二点減点。

観点別
知・技
14
思・判・表
36

④ × 9										③ × 2		② × 4	
10 ⑧	9 ⑧	8 ⑧			7 ⑧	6 ⑧		5 ⑧		4 ⑧	3 ⑧	2 ⑧	1 ⑧
エ	イ	文	疑	(例)「	そ	二つ目		一つ目		誤	(例)言	記号	ア
		化	い	物	の	み	(例)こ	の	(例)相	解	葉		誇
		や	、	語	動	る	れ	意	手	が	や		張
		社	互	「	物			味	の	修	文	ア	ウ
		会	い	に	が		ま	で	を	立	復	化	d
		を	に	よ	ら		で	を	考	場	さ	の	
		理	相	っ	て		の	常	え	に	れ	違	
		解	手	て	い		識	る	立	な	う		
		す	が	作	自		を	を	ち	い	民		
		る	暮	ら	然		を	を	、		族		
		こ	ら	れ	く		疑	こと。	行				
		と	し	た	知		っ	こと。	動				
		。	て	常	る		て						
			い	識	こと								
			る	を									

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

氏 名

1000

3 (2) 省略部分を自由に解釈できるということが具体的に書いてあれば可。

「一瞬」「冬」の二語がなければ不可。

観 点 別	
知・技	
／24	
思・判・表	
／26	

③ × 3		④ × 1				③ × 2		④ × 1		③ × 1		③ × 6		
7 ㊦	6 ㊦	5				4 ㊦	3		2 ㊦		1 ㊦			
㊦	始め	(3) ㊦				(1) ㊦	(2) ㊦		(1) ㊦	b	a	ア		
関心身近	読者	節感	初冬	一句	(例) 一瞬	有季定	(例) 「どの子にも」を自分のことだと考えてもよいし、近所の子供のことだと考えてもよい。		始め	品詞	品詞	隔て		
	を共	をの	に	と	イ		型	㊦	省略	形容動詞	動詞			
	に	出	き	入	冬				され	活用形	活用形			
	し	り	れ	と	(2) ㊦				て	活用形	活用形			
	し	り	れ	と	(2) ㊦				て	活用形	活用形			
に誘い込	てい	っ	る	こ	う	歳時記			い	う	と	こ	ろ	こかげ
(完答)	効果。	。季	で	現	を	(漢字指定)			(完答)	連体形	連用形			

⑤					×					8					②					×					5				
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5				4	3	2	1																
9	8	7			6	5																							

(採点基準)

ひらがなでなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
「母」のみは不可。「子供の母」もしくは「妻」は可。
理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
「涼しい」(活用可)の語がなければ二点減点。
「恋心」の一語がなければ不可。理由を述べる文末表現でなければ二点減点。
文末が「こと。」でなければ二点減点。

観点別
知・技
18
思・判・表
32

④ × 1	③ × 1	④ × 1	③	×	7	③	×	6	知
13	12	11	10	9	8	7	6	5	4
て	生	時	(例)あ	(例)	(	二	(例)真	(1)	a
し	き	間	ま	人	子	一	っ	枕	
ま	な	を	り	(	私	目	白	詞	
う	が	過	に	)	供	目	な	こ	
か	ら	ご	涼	の	の	子	衣	い	
も	恋	し	しい	(	妻	が	が	お	
し	心	て	い	)	母	泣	干	れ	
れ	を	し	の	(	が	い	し	ば	
な	秘	ま	で	)	待	て	て	神	b
い	め	っ	、	(	っ	い	あ	に	
か	て	た	思	)	て	る	る	お	
ら	い	こ	わ	(	い	だ	か	い	
。	る	と	ず	)	る	ら	ら	ける	
	力	。	長	(	る	う			
	が		い	)	。	。			
	弱			(					
	っ			)					
30		30		(			15		

※無断で複写・複製をすることを禁じます。

(採点基準)

ひらがなでなければ不可。「難人形」の三語がなければ不可。
「草庵」「新しいうまい住人」二語がなければ不可。
理由を述べる文末表現でなければ不可。減点。
「卯の花」「兼房」の二語がなければ不可。
くを連想した。」につながらなければ不可。

観点別

知·技

/22

思·判·表

28

得点

100

[illegible]

氏 名

文末が「く様子。」につながる形でなければ不可。

得点

[illegible]